

初めてだから

園長 高地 敬

新しい年になり、いろんなところに「初」という字がついています。初日の出、書初め、初詣、初夢・・・。生まれて初めてのことでなくて、新しい年になって初めてのことなのですが、何となくうれしい気持ちになるのだと思います。前からやっているので手順は分かっていて、でも今年初めてのことだからうれしい。

大人は多くのことを経験しているので、「生まれて初めて」のことはまれですが、子どもたちにとっては、生まれて初めてのことが毎日たくさんあるのだと思います。家族との関係や幼稚園での関係の中で、毎日たくさん新しい経験をする。これが「成長」につながります。新しいことを経験する。その中には失敗の経験もたくさんあります。失敗もするから「成長」が豊かになっていきます。

初めてのことがあると、大人もそうですが、期待をいっぱいして、でも不安がいっぱいということもあります。「失敗したら恥ずかしい」という思いが強ければチャレンジできませんし、「初めてだけど、できたらうれしい」とい思いが強ければ、難しいことでもやる気になるのだらうと思います。

ただ、「初めて母(父)になる」は、期待もいっぱい、不安もいっぱい。子どもが赤ちゃんの時は、どうしていいか分からないということも多かったのではないのでしょうか。それでも母(父)になり、子どもにどう接していいか分からなくて不安でも、とにかく毎日やっていかないとけない。うまくできなかったということが多かったかも知れませんが、ずいぶん前にテレビで、「お母さんも初めてお母さんをやっているのだから、うまくできなくてごめんね」とお母さんが娘に謝っているところが映っていました。子どもにとって親の言うことやすることが変だと思っても、親を言い負かすことは難しいので、結果的に親の言動が絶対となってしまいます。でも、親は初めて経験する親子関係の中で失敗をたくさんしますし、逆に、理想的な親子関係ができるというのは奇跡に近いのだらうと思います。

本当は初めての子だけでなく二番目、三番目の子ども、その子と接するのは親にとって「初めてのこと」といえるかも知れませんが、どの時にも「至らない親」を自覚するのはとても難しいことなのですが、「うまくできなくてごめんね」と初謝りすると、とてもうれしい気持ちになるのだらうと思います。